

第25回いたばし国際絵本翻訳大賞英語部門

『Hattie Helps Out』 講評

今回の課題絵本 **Hattie Helps Out** は、「お手伝い」というとても身近なテーマだったこともあり、主人公のハティに寄り添った、生き生きとした訳が多かったです。わたしも、楽しく読ませていただきました。

お姉さんになったハティのほこらしい気持ちや、家の用事や妹の世話でたいへんなお母さんをおもんばかりの気持ちと、ちょっとさみしい気持ち、そんなハティを見守り、愛しているまわりの人たちのようすなどが、短いストーリーからひしひしと伝わってきます。入賞者の方々はみなさん、そういった描写を細かいところまでくみ取って、それが（原作と同様に）さりげなく読者にも伝わるような日本語にしていच्छやいました。

一次審査は、間違いやすいところなど、70 近くのチェックポイントを作り、主に文法を中心にチェックしました。

例えば、

11 ページ **But that won't take very long.**

「that」は、ママが言っているパーティーの準備のこと。これから二人でするお昼寝のことではない。

13 ページ **will I always be**

「will」（未来形）であって「am」（現在形）ではない。「いつも」ではなく、「いつまでも／ずっと／これからも」など。

30 ページ **Was Mama going to be cross?**

「be going to」は「(今) おこっているかな?」ではなく「(このあと) おこるかな?」。

30 ページ **What would I have done**

仮定法を理解した訳に。

といった文法的なことや、

8 ページ **She measured out the sugar.**

絵と矛盾のないように。（「はかり」は使っていない）

24 ページ **swept**

「拭く（ふく）」はNG。

といったように、絵と矛盾してしまっていないかをチェックするもの（絵本を訳す場合に、とても大切なことです）、また、

7 ページ too old

「歳だから」という直訳では、まだ幼いハティのせりふには合わない。

8 ページ so the flour was fine

小麦粉は「細かくする」とは言わない。(さらさらにする、など)

といった、日本語として自然かどうかを見るチェックポイントもありました。
こうしたチェックを経て、786応募作品中29作品が最終選考に進みました。

最終選考では、一步踏みこんで絵本のテーマや魅力をじゅうぶん伝えられているかどうか、そして、日本語として耳で聞いて心地よいか(これは、絵本翻訳において最重要と言ってもいいと思います)、声に出して読んで楽しいかといったことを、審査しました。

例えば、7ページの for my rest。ここは、お母さんの「for your sleep」をわざわざ言い直しています。つまり、昼間の「sleep」は小さい子がするもので、自分はもうそんな年齢じゃないと思っているのです。そのことが読者にも伝わるように、「sleep」と「rest」の訳語は別のものにしなければなりません。

また、12ページの top of the bed。こちらもただ「ベッドの上」と訳しては、そのあとのちゃんとおふとんの中に入ってほしい、というせりふの意味が今一つ伝わりません。ハティがママに甘えたい、ちょっとだけ独占したいという気持ちを表わす「just you and me」というせりふが生きるように、ハティの想いを想像しながら訳してほしいところです。

一方、この絵本のもう一つの魅力は、ハティのかんちがいでしょう。おかあさんの stick the biscuits together という説明をそのまま受け取って、文字通りセロハンテープやのりをつかってビスケットをくっつけてしまうのですが、それは18ページの「絵に語らせる」のがいちばん。作者自身も文章では説明していませんし、ここは読者に「発見」してもらったほうが、数倍楽しくなります。

また、翻訳絵本ならではの工夫が必要なところもあります。6ページの place cards ですが、このカードはお客さんがどこにすわるかを示すものです。日本では、すぐにピンとこない子ども読者も少なくないと思いますので、「おきゃくさんの におえをかいた カードをつくるのは、ハティのしごと」(最優秀翻訳大賞の方の訳)のようにうまく伝えてあげることが必要となります。また、「ベリー」、「キルト」といった言葉も(必ずしも変えなければならぬわけではないわけではありませんが)、日本の子ども読者にわかるように訳してあげたほうがいいでしょう。

ちょっと面白いところでは、27ページの rubbish でしょうか。よく見ると、ロティが口に入れているのは、party hat の残骸ですよね。最優秀翻訳大賞の方はちゃんと気づいて、「かみくず」と訳していらっしゃいました。

以上の講評からも、絵本とは「絵のある本」、つまり「絵を見ること」がとても大切だと、わかっただけだと思います。あとは、毎回書いているように、*誤訳を少なくすること。

(文法的に矛盾している点がないか、よく見ること) *読み聞かせることを前提に、声を出して読んでみること。 *関心を持って訳すこと!
ぜひ、また来年もぜひ参加してみてください!

英語部門 審査員 三辺 律子